

件名	都岡小学校建て替え工事に伴う設計業務委託
----	----------------------

事務所の商号又は名称	八板建築設計事務所
------------	-----------

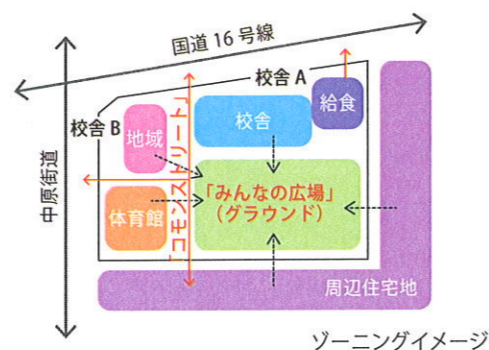
### 風の学び舎、みんなの広場

交通量の非常に多い国道16号線と中原街道に面する角地という立地の中で、使い易く安心・安全で快適な学習環境を創り出すだけでなく、同時に周辺地域にとっても活用できる「みんなの広場」を持つ学校を提案します。新しい建築ボリュームが周辺地域への騒音や圧迫感の軽減に貢献し、学校と地域が一体となって子どもたちを優しく包み込み、育んでいくような環境づくりを通じて、地域と共にあるこれからの時代の小学校の形を考えます。

#### (1) 施設計画の考え方についての提案

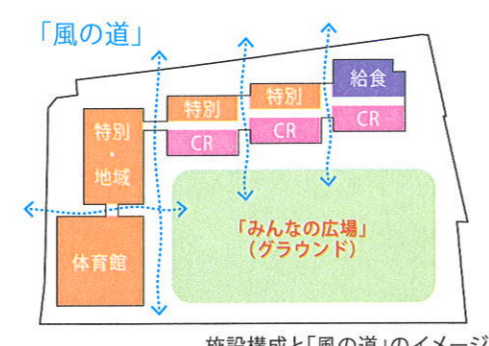
##### ① 地域に開かれたゾーニング

基本構想時のゾーニング案に周辺住宅地も考慮し、地域全体の関係を考えたゾーニングを提案します。学校やコミュニティハウスだけでなく、休日には誰もが気軽に利用できる「みんなの広場」と名付けたグラウンドを南に配置し、校舎はそれを北西側から囲い込む形にしました。その中に、南北に通抜けられる新たな動線として「コモンストリート」を計画し、この「コモンストリート」に様々な機能が面し、活気を生みだすことのできる構成を考えました。「みんなの広場」を中心に、校舎の様々な機能と周辺住宅地が一体となって子どもたちを育む環境を作り出し、コンパクトで管理しやすい計画であると同時に、地域に開かれた誰でも利用しやすい学校のあり方を実現します。



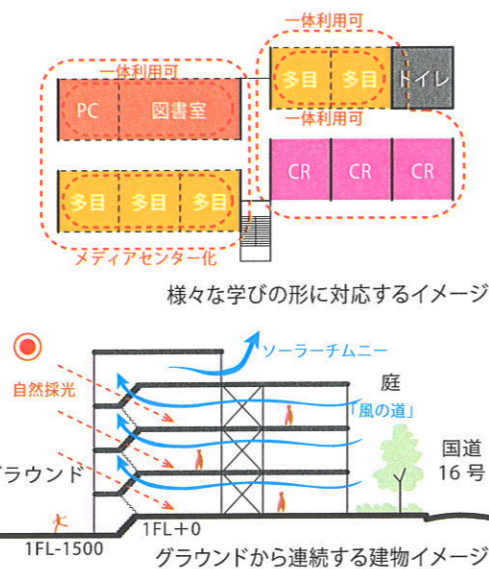
##### ② 検討案の課題解決と光と風を取り込む快適な学習環境

基本構想案の課題として、幹線道路側に校舎を配置することで騒音に対する配慮が不可欠となること、そして階数が4階になることによる身体的負担があると考えました。そこで私たちは校舎を3階以下に抑え、分節・雁行させて配置することでグラウンド面積を十分に確保し、さらにグラウンド側に普通教室群をまとめることで道路からの騒音問題を解決します。また中廊下型校舎になることで内部が暗くなったり、騒音の為に窓が閉じられ、通風が悪くなることを防ぐために、校舎の貫通する「風の道」を設けました。「風の道」は光や風を導く環境装置であると同時に、手洗い・足洗いを置くことで、明るく風通しの良い清潔感のある水回り空間にもなります。



##### ③ 様々な学びの形に対応する柔軟な空間構成

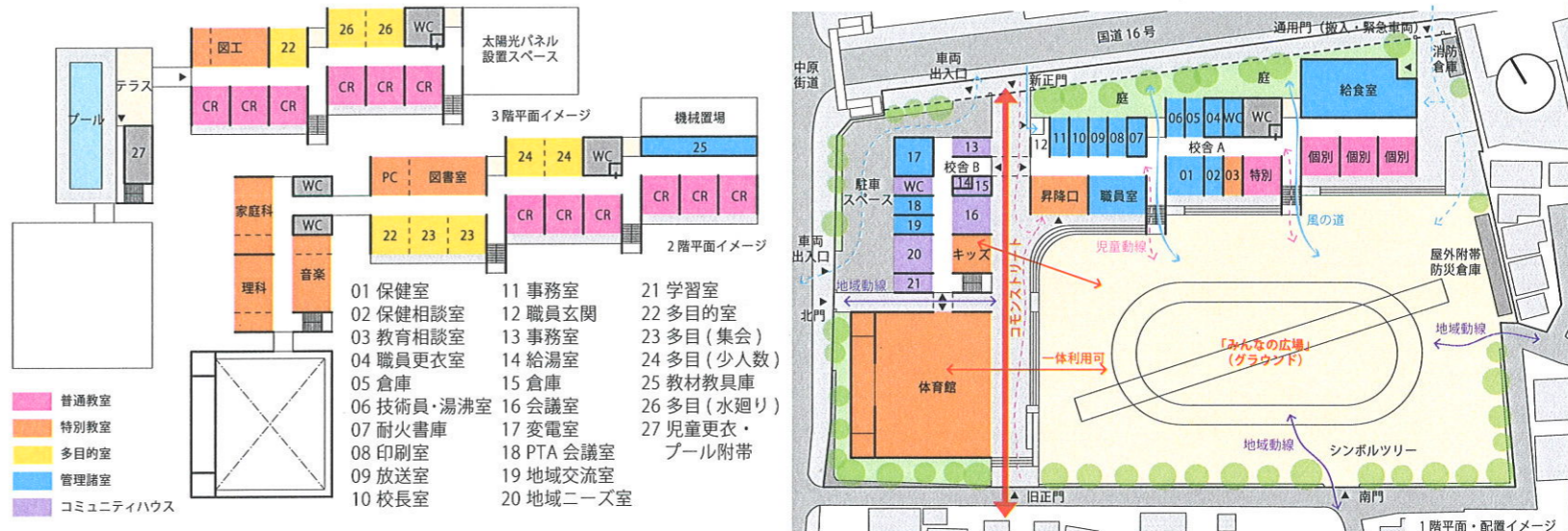
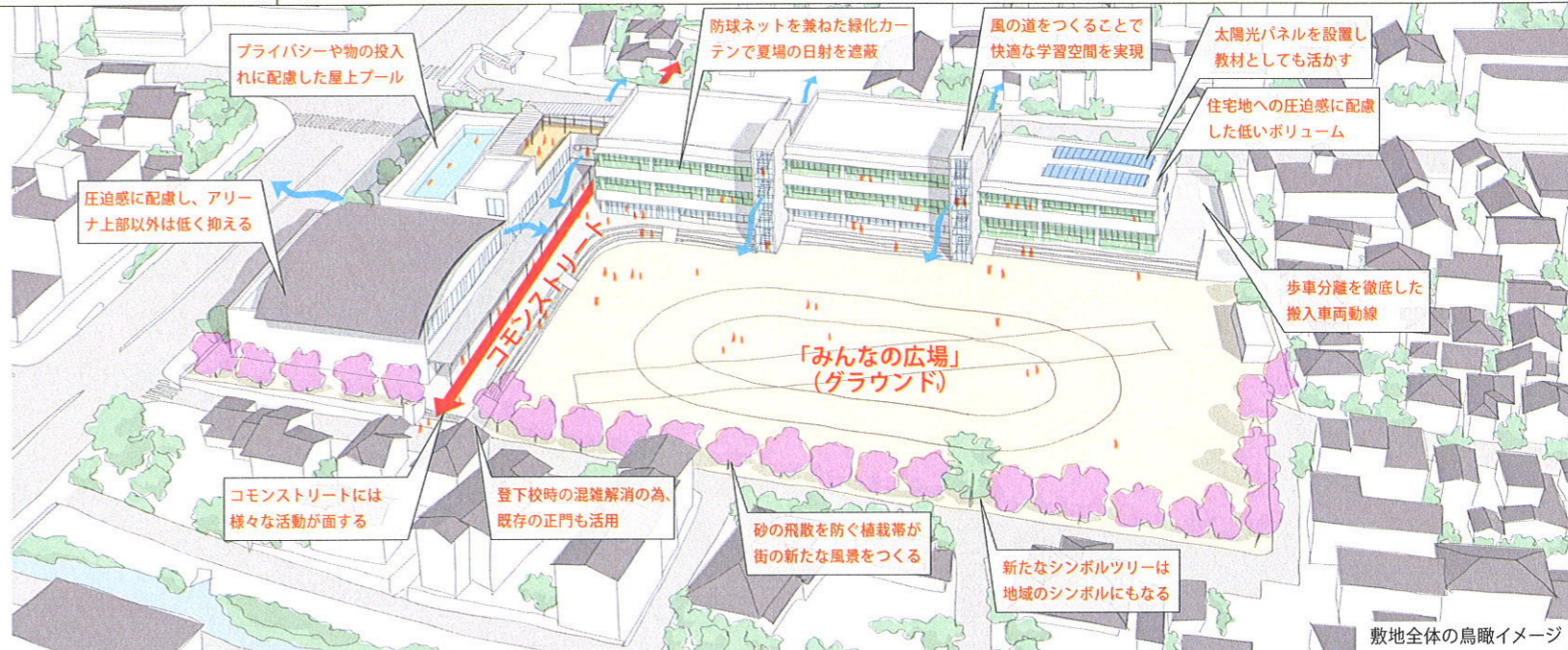
多目的室群は、可能な限り普通教室と近接して配置することで、教室の延長や学年単位の利用、学校全体の集会やイベントなどに柔軟に対応できる計画とします。また学校の中心として2階中央部分に図書館・PC教室を設け、それと連携して多目的室を設けることで「メディアセンター」のような新たな活用方法も提案します。また音楽室は屋内運動場に隣接させ、発表会や集会時の楽器等の移動楽屋利用をしやすいです。さらに体育館はグラウンドに面して開放でき、運動会等のイベント時には一体で利用できます。学校全体がコンパクトでありながら非常にシンプルで柔軟な構成とすることで、様々な学びの形に対応できるように計画します。また、将来の改修や用途変更にも容易に対応可能な、次世代の小学校を実現します。さらに「風の道」に設ける階段は、高低差を生かしてグラウンドまで直接アクセスできるように計画し、教室群とグラウンドとの連携を作り出し、屋外授業にも対応しやすくします。また災害時には、この動線は避難動線としても機能し、避難施設としても活用しやすい、様々な利用シーンを想定した計画とします。



##### ④ コスト縮減と施設の長寿命化を実現する方策

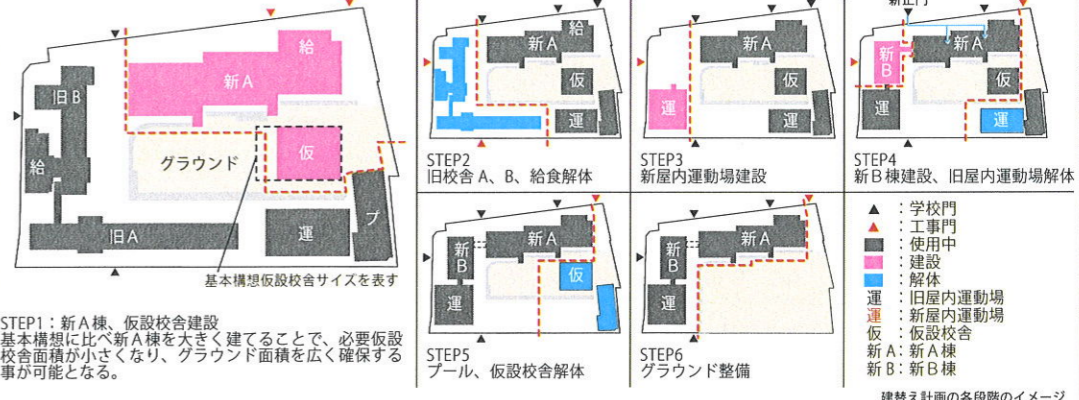
建物をコンパクトにして高さも抑え、造成範囲(盛土・切土)も最小限に抑える計画とすることで建設コストを縮減します。また建築形状を活かした環境負荷軽減メニューを検討し、コストや効果の比較検討を重ね可能な限り実現することでランニングコストにも配慮します。建物全体としてはCASBEE-Sランク取得を目指します。

- イニシャルコスト縮減・・・PCA化を検討し、工期短縮と躯体の高品質化・長寿命化を図ることでLCC、LCCO2の削減を図ります。
- ランニングコスト縮減・・・パッシブとアクティブ手法を効率的に組合せ、建築形状を活用した環境負荷軽減対策を検討・採用し、それを環境教育の教材としても活用できるように計画します。太陽光発電、太陽熱給湯、階段室の自然換気を活かしたソーラーチムニー、ナイトパーズ、授業にも活用できる屋上緑化、学級菜園を兼ねた緑化カーテン、雨水の中水・散水利用、高効率機器、各種センサー、落下防止策等の効果を比較検討し、予算の範囲内で導入を検討。
- 将来の更新性を考慮・・・設備機器の更新だけでなく、将来の改修、用途変更にも容易に対応できる構造計画を検討します。



#### (2) 工事中の安全・学校運営への配慮についての提案

北側の校舎新設と仮設校舎建設は同時並行させることで工期を短縮します。さらに屋内運動場の建設をB棟より先行することで、既存屋内運動場の解体を前年度に前倒し全体工期の短縮を提案します。B棟建設時は、A棟への児童・職員用入口を国道16号側に取りこむことで新正門から校舎への安全通路を確保し、また校舎を北側に寄せたことで造成範囲を抑え、土工量が減り工期が短縮します。工事車両は大通りからの左折入退場とし、児童入口と十分離すことで安全を確保し、近隣の住宅街にも配慮します。出入口に交通誘導員を配置し、工事内容や車両の種類に応じて増員対応を行います。



#### (3) 業務の成果物等の品質確保、業務の進め方と取組体制についての提案

関係各所との調整で与件を正確に把握し、さらに意匠・構造・設備・積算での設計会議を定例化することで、品質管理とコスト管理を徹底します。設計チームは市内小学校の実績を持ち、これまでの知見を活かして行政、学校側、市民との調整を密に図り、さらに新たな技術提案も積極的に行いながら、今後100年の新たな基準となるような、標準設計仕様の更新も目指します。

